

清須市における生活支援体制整備事業の取組状況

1 清須市の概要（R5. 1. 1 時点）

面積	17.35 km ²
人口	69,172 人
高齢者人口（高齢化率）	16,169 人（23.4%）
日常生活圏域（圏域）	4 か所（中学校区）
地域包括支援センター	2 か所（2 地区毎）



2 生活支援コーディネーター及び協議体の設置状況

	第1層	第2層
生活支援コーディネーターの活動圏域	市全域	中学校区（4地区）
生活支援コーディネーターの数	1人	2人 ※地域包括支援センターの担当地区をそれぞれが担当
配置先（委託先）	清須市社会福祉協議会 常勤	清須市社会福祉協議会 常勤2人

3 第1層生活支援コーディネーターの取組み

(1) 協議体「地域ささえあい会議」[年2回程度開催]

- ・目的：住民、専門職がともに地域課題について検討し、地域情報の共有と連携を強化することにより、助け合いのある地域基盤を作る。
- ・参加者：地域住民、地域包括支援センター職員、市役所、生活支援コーディネーター
- ・テーマ：買い物、男性の社会参加

(2) 協議体（福祉団体や社協の他事業との連携による開催）[年10回程度開催]

- ・目的：地域住民との情報交換とニーズ把握

(3) 社協主体サロン、福祉出前講座の開催

- ・目的：集いの場の創出と、担い手の養成

4 第2層生活支援コーディネーターの取組み

(1) 協議体「地域ささえあい会議西枇杷島」[年2回程度開催]

- ・目的：住民、専門職がともに西枇杷島の地域課題について検討し、地域情報の共有と連携を強化することにより、助け合いのある地域基盤を作る。
- ・参加者：地域住民、地域包括支援センター職員、市役所、生活支援コーディネーター
- ・テーマ：西枇杷島のいいところ、西枇杷島の元気の秘訣

(2) 協議体（福祉団体や社協の他事業との連携による開催）[年10回程度開催]

- ・目的：地域住民との情報交換とニーズ把握

5 令和4年度生活支援体制整備推進に係る助言者派遣の実施

地域活動者から「男性の参加が少ない」という相談を以前から多く受けていたことから、「男性が参加したくなる地域活動はどう作るのか？」というタイトルで以下のとおり講演会を実施した。

(1) 講演会の概要

日時：令和4年12月12日（月）13：30～15：30
 会場：清須市清洲総合福祉センター
 参加者：19名
 講演名：地域のつながりづくり講演会
 ～男性が参加したくなる地域活動はどう作るのか？～

①助言者による講演（講演内容）
 社会福祉法人楽笑
 NPO法人 start from Miya 理事長 小田泰久氏
 （男性が参加したくなる地域活動はどう作るのか？）
 蒲郡市社会福祉協議会地域福祉係長 大須賀めぐみ氏
 （いきいき輝くシニア男性グループの活動から学ぶ）

②参加者グループワーク

(2) 講演会を通じて感じたこと

- ・男性と女性では通いの場に求めるものが異なっており、本市が介護予防事業として実施している体操教室や脳トレ教室では参加者同士の横のつながりを意識する女性の参加者が多く、スマホ講座のような習得目標が明確な教室では男性の参加が多い傾向となっている。
- ・男性は定年まで朝から夜まで働き続けているため、地域活動はほとんどしていない。65歳位まで定年延長している現況では男性を通いの場に繋げるのは容易ではないが、就業中から年齢性別に関わらず、地域活動や通いの場に参加できる環境づくりが必要となっている。



令和5年1月に開催した協議体「男性による・男性のための地域活動会議」において、男性同士の情報交換やアイデア出しを行い、男性の社会参加を推進するための課題やアイデアについて、深く掘り下げることができた。

6 今後の課題

- ・担い手の高齢化等により停滞する地域活動を活性化する必要がある。
 ⇒ SNS やスマートフォンを活用したオンラインでの社会参加やつながりづくり等、新たな支え合い活動を推進する。
- ・既存の仕組みでは対応できないニーズを解決するため、新たな支え合いの仕組み作りが必要である。
 ⇒ 全国から先進的な支え合いの仕組みについて学び、社協がモデル的に実施をすることで、市内の活動団体に新たな取組の提案を行う。